

発行所＝社会通信社 発行人＝滝野 忠

ホーリー・ジ <http://shakaitusuushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitusuushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八一—一九〇四 電話・FAX(03)3299-15367

郵便振替＝〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金＝中央労金本店 No.1154163

くもくじ

■卷頭■

小林 晃 と 伊藤 誠

向坂逸郎と宇野弘藏を継いで

原 野人：2

マルクス思想の根本

滝野 忠：4

階級と唯物史観

…5

—『共産党宣言』を読み直す（一）—

未来に向け新たな歩み始める 小西 純一郎 …9

—武庫川ユニオン 結成30周年を祝うつどい—

読者からのおたより

… … …

11

NO.1271

一〇一八年九月一日号

（二〇一八年九月一日発行
毎月一日・二十五日二回発行）

旬刊社会通信

ちょうど1年前に、小林晃さんは滝野忠さんへの手紙で、こう述べている。

「法律家（弁護士）と宇野派は、その思考様式において、形式論理（非弁証法）的傾向が強い点で共通していますから、B.I.（ベーシックインカム）でも、お互いに共鳴しやすいのでしょうか。」

向坂逸郎の直弟子である小林さんは、本誌2015年1月1日号においてこうも述べている。

「宇野理論の一大原点とは、生産の社会的性格と所有の私的性格の矛盾をもつて、資本主義の基本的矛盾とする通説を批判し、これに対置して『労働力の商品化』を資本主義の基本的矛盾と捉える特異な見解である。」（宇野理論の全体像を簡単に紹介・批判している部分はここでは省略。）

「かつて社会主義は、マルクス・エンゲルスによる『唯物史観と剩余価値との発見』によつて科学となつた』のであるが、今それは宇野理論によつて、再び『空想へ』ひきもどされた、というのははたしていいすぎであろうか。」

宇野理論とはかくも非科学的な理屈であることを、信じがたい読者のために、小林さんはさらに本誌15年2月15日号で次のようにその理論を紹介し批判する。

宇野理論とその方法は、……一言でいえば、弁証法とは対照的な思弁（観念）的形式論である。そのことが最も象徴的かつ集約的に示されているのが「原理論」である。以下は宇野の言葉である。

「エンゲルスは『唯物史観と、剩余価値による資本主義的生産の秘密の暴露とは、實にわれわれがマルクスに負うところである。社会主義はこれによつて一つの科学となつた』といつていますが、『資本論』によつてもマルクス主義が科学になつたわけではありません。多くのマルクス主義者諸君は今もなおマルクス主義は科学であるといつていますが、これは誤りです」（宇野『資本論の経済学』、岩波新書、169頁）。

『資本論』の説く社会主義の必然性には私は根本的な疑問を持つている」（同、182頁）。「原理論」では、「永久的に繰り返すかの」とくにして展開する諸法則」（宇野『経済原論』、岩波、226頁）を「いわゆる円環体系」（『資本論の経済学』、59、64頁）としてとらえなければならない。

この観点から見ると、『資本論』には多くの「夾雜物」や「不純物」が「混淆」しており、したがつて『資本論』自身が原理論として純化されること」（前掲『経済原論』11頁）が必要である。そうした「夾雜物」「不純物」の最たるもののがいわゆる「窮乏化法則」である。「マルクスのように労働者階級の窮乏化を資本主義的蓄積の絶対的な一般的な法則とするのは、むしろ十九世紀の三、四十年代のイギリスに見られた旧来の手工業の没落という特殊の事情を無視して一般化したもの」（前掲『資本

論の経済学』30頁)であり、したがつて、せいぜい『窮乏化法則』は「理論的体系としては付録的なものといつてよい」(同、182頁)。

小林さんはこれを次のように丁寧に解説する。

みられるとおり、『資本論』と宇野「原理論」における、理論の展開の仕方・方法の対照性が明白であろう。一方、量の蓄積から質の転化を中心とする弁証法的論理の、随所に一貫する展開に対し、他方、「永久的に繰り返す如くにして展開する」「円環体系」として、いわば同じ軌道上で「永久的な循環運動をくりかえす」論理の展開。こうした「原理論」の非弁証法的な論理展開を基準にすれば、『資本論』には、多くの「不純物」「夾雜物」が「混淆」しているように見えるのは当然の帰結である。したがつて、それらの除去による『資本論』の「純化」が必要となる。この產物がほかならぬ宇野「原理論」である。そしてその「不純物」「夾雜物」の最たるもののが、『資本論』の理論的核心というべき「資本主義的蓄積の一般的法則」(「窮乏化法則」)となる。そうかといって、社会主義の歴史的必然の「論証」は、三段階論のどこにもない。

小林さんはさらに、この宇野理論を真っ向から批判している向坂『経済学の方法』(岩波)を引用する。長い引用なので、読者は本誌15年2月15日号を見られたい。

マルクス・エンゲルス、レーニン、向坂を継承する小林さんと、宇野理論を継承する伊藤誠さんとでは、溝を埋めることができないような大きな隔たりができる。伊藤さんは新社会党の誕生には応援して下さったが、その後弟子たちと共に、新自由主義による国家独占資本主義消滅論やB I論等によつて大きな弊害を生んでいる。『協会』は党を弱める『非科学協会』になり果て、昨年筆者は顧問と会員を辞した。B Iが社会主義につながる理論であるどころか、いかに有害な間違つた政策であるかについては、本誌で繰り返し明らかにしてきたところであるが、B Iを掲げる人々は、自分がいかにマルクシズムから遠く隔たつてしまつたかを自覚できないらしい。B Iは、マルクスやレーニンや向坂を根元からリセットしなくては生まれようのない政策である。唯物史観も、剩余価値の法則も、資本主義的蓄積の一般的法則とその歴史的傾向も、社会主義の必然性も理解できない人にふさわしい政策である。労働者階級が政治的支配を確立し、組織的民主主義的に収奪者(独占資本)を収奪して、生産諸条件を自らの共同的所有に転化しなくてはならないことが理解できず、B Iの行く手に「労働力の脱商品化」や「労働力商品化の無理の緩和・解消」を夢想する諸君にふさわしい、非弁証法的形式論理を好む人の理屈である。ソ連等崩壊や中国変質の根本的原因(本誌17年11月1日号参照)を理解できず、「市場社会主義」や「社会主義的産業予備軍」を美化する人たちのチブルジヨア的な理屈である。

社会主義を「科学から空想へ」引き戻す諸君の理屈である。

自民党による改憲発議が眼前に迫り、自治体選挙で仲間を増やす闘いに全力を挙げねばならない時に、先の党大会で撤回したはずのB Iをこりもせず紙誌や講演に登場させ、党内を混乱させて恥じない諸君の理屈である。

(原野人)

マ ル ク ス 思 想 の 根 本

— 向坂を無視する「マルクス学者」 —

今年は、マルクス生誕200年（エンゲルス生誕200年は2020年）、「ヨーロッパに幽靈が出る—共産主義という幽靈である」の書き出しで、誰一人その著作の名を知らぬ者がない『共産党宣言』出版170年の歴史的な年である。「市場原理主義」「新自由主義」というムキダシの資本主義の発現は、マルクスの復権と社会主義の必然性に再び光を当てる求め始めた。

マルクスの生まれ故郷のドイツ南西部トリリアは、マルクスの肖像画を描いた額面「0」ユーロの「マルクス紙幣」を売り出した。1枚3ユーロ（1ユーロ＝130円）で発行貨幣量は5000枚とのことだが、世界中から注文が殺到し、増刷りに次ぐ増刷りとのことである。南ドイツ新聞（元旦号）は三面を使い、マルクスの肖像写真を大きく掲載、マルクスの生誕を祝つた。

マルクスが注目を浴び、その思想に再び光をあて、学び返されるのはいいことだ。

その時、忘れてはならないのは、マルクスの根本思想とはなにかである。

第一はマルクスは革命家であったことである。

第二は革命家マルクスの根本的世界觀は、『資本論』が解明した社会主義の必然性にもとづくことである。

第三は変革＝革命の主体は労働者階級であることを明確にしたことである。

これらの考え方の根本にあるのが唯物史觀であり、剩余価値の發見である。

日本におけるマルクスの理解は、「非実践」的・「理念」的である。マルクスの理論から革命的本質をぬきとる“思弁”的なマルクス学説がもてはやされているからだ。最近の刊行物に『マルクス 資本論の哲学』（熊野純彦著、岩波新書 2018年1月）がある。目次は①価値形態論—形而上学とその批判、②紙幣と資本—均質空間と剩余の発生、③生産と流通—時間の変容と空間の再編、④市場と均衡—近代科学との批判、⑤利子と信用—時間のフェティシズム、⑥交換と贈与—コミューン主義のゆくえとある。この目次では、マルクスの思想・世界觀はわからない。哲学者のお遊戯にねじまげられている。搾取、剩余価値、社会主義の必然性が意識的に無視される。熊野氏はまえがきに「世界革命はこれまで二度おこっている。一度目は一八四八年であり、二回目は一九六八年のこと」と述べる。一八四八年は「ヨーロッパに幽靈」が出た時の全ヨーロッパをおおつた革命の嵐であり、二回目はフランスにおける学生の反乱、いわゆる5月革命である。

私など革命といえば一八七一年のパリ・コミューン、一九一七年のロシア革命、一九五九年のキューバ革命を思い浮かべるが、熊野氏の問題意識はまったく異なるようだ。

この本のミソは「経済学」といわないで「哲学」とされたこと。彼の専門は倫理学・哲学史だから、経済学は素人とおつしやるのかもしれない。熊野氏は「理論と実践」を分離される宇野弘蔵氏（「宇野理論」の本家）に、親近感をおもちでいらっしゃる

ようだ。同書のあとがき「資本論研究の流れによせて」に、『資本論』の参考文献に、岩波新書の宇野著『資本論の経済学』を一番にあげ、哲学者の柄谷行人、梅本克己、廣松渉、社会・経済思想家の内田義彦、大塚久雄氏の著作をすすめていらっしゃる。しかし、不思議なことに『資本論』出版100年を前に重版された向坂逸郎の『資本論入門』にはふれられていない。宇野さんは「ぼくはマルクス主義者でもなければ、マルクス経済学者でもない」とのたまわく。向坂先生は「ぼくはマルクス主義者、革命家」とおっしゃる。そんな考え方の違いによるのだろう。

論壇は、読売・産経を中心とする右翼出版社に占拠され、唯一、「文化人」の心をなぐさめてくれているのが『世界』である。『世界』5月号は「マルクス生誕200年、没後135年」に関連文献を紹介する。ここにも向坂の『入門』はない。この傾向は岩波文化人にかぎらない。向坂を徹底的に無視するのが、今の学者・文化人であるらしい。なぜか、向坂が史的唯物論、社会革命こそがマルクスの根本とするのが気にくわないのである。

（滝野 忠）

階 級 と 唯 物 史 觀 —『共産党宣言』を読み直す（一）—

ベストセラー

今年（2018年）は、だれもが書名だけは知っている『共産党宣言』発刊170年、マルクス生誕200年（エンゲルス生誕200年は2020年）です。

『宣言』は、「マルクスは時代おくれ、社会主義破綻した」と、学者・文化人がドラ声を張り上げる今日でも抜群に“売れ”（“読まれ”ているかどうかはわかりませんけれど）ているようです。

岩波書店は「文庫」創刊90年の2017年、いちばん売れている本のリストを掲げました。『坊ちゃん』『こころ』はだれもが予想するところですが、びっくりさせられたのは『ソクラテスの弁明』『論語』『善の研究』、そして『歎異抄』に『古事記』と歯が折れ、脳みそがコチンコチンになりそうな“固いもの”が並んでいることでした。『宣言』は8位とありました。

翻訳者・向坂先生がご存命の1970～80年代、『坊っちゃん』第1位、そして『宣言』が第2位と聞いておりました。『宣言』の人気は衰えていないんです。しかし、『宣言』が売れているわりに、『宣言』の理解は深まっておりません。ですから、「だれがどのように読んでらっしゃるんでしょうかね」との皮肉ともとれるような評論もなくないのですけれど。

向坂塾

『宣言』は“小さな”パンフレットとして世に出ました。『宣言』にはギリシャ、ローマの古代、中世、近代の「歴史」がギツシリと詰まっています。これは、「（『宣言』では多少とも歴史を述べなければならないのだから」（エンゲルスのマルクスへの手紙、1847年11月）とのエンゲルスの助言によるものです。

ぼくが「向坂塾」（塾長は和氣誠さん）に入塾したのは1969年です。向坂邸の宅地内の和氣さん宅が、塾です。初心者向けのテキストは『宣言』と『資本論第一巻』、『宣言』『資本論』の学習会は毎週1回、午後6時から9時すぎまで。『宣言』は1年、『資本論』は4年も時間をかける、てつていしたものでした。

向坂先生はよほどのこと—多くは職場労働者との学習会への出席—がないかぎりかならず出席されました。『宣言』の内容より、先生の広く深いさまざまな「おしゃべり」がおもしろかった。「松蔭がポターハン号で米国へ、そして英國へわたりマルクスとエンゲルスに会つていれば、日本の社会主義の歴史はもっと変わつていたかも」「徳川幕府が鎖国制度をとらなければ、日本は英國に先駆けて資本主義社会になつた」のではというようにです。

「宇野理論」にかぶれ、B1なるユートピアに夢中になつてゐる大昔の社青同本部の中心人物は、1人も参加していなかつたように記憶しています。

今、印象派のモネやマネがブームです。それとともに浮世絵がもてはやされています。先生は絵に、文学に造詣が深かつた。向坂宅の大きな玄関にはセザンヌの静物画が掲げられてありました。先生いわく、「これ本物ですか、と聞く人がいるんだよ、貧乏学者に買えるわけないのにね」、さらに「印象派の画家がえらいんで、浮世絵の画家がえらいわけではない」と、満面に笑みを浮かべて話されていたことは、今も忘れるることはできません。

3つの文献

『宣言』学習会は数えきれないほどやりました。歴史についての知識も多少ふえました。しかし、わからぬ箇所は限りなく増えるばかりです。ムキダシの資本主義が世界、社会を荒らしまわり、労働者を精神的・肉体的貧困と困窮においこみ、資本主義という体制がもがき狂しんでいる今、『宣言』を学び直すことは歴史の前進への大きな一步です。そんな問題意識から、通信で『宣言』の学習会やろうよ」と呼びかけ続けました。『資本論』の勉強会をやつてます」との連絡をいただくことはまれではないのですが、実現しておりません。

マルクスの世界観を学ぶ3つの文献があります。『宣言』『賃労働と資本』『空想から科学への社会主義の発展』です。『宣言』はマルクスとエンゲルスの世界観全体、『賃労働と資本』は『資本論』の要約みたようで資本主義における搾取と資本主義の歴史性、『空想から科学』は、社会主義をただ願望として示しただけでなく、マルクスは労働者階級が必ず社会主義社会をつくりあげる必然性を資本主義の中に発見したのです。ですから、エンゲルスはマルクシズムを科学的社会主義といったのです。

誕生

『宣言』は、マルクスとエンゲルスの共同の著者です。エンゲルスはマルクスへの手紙（1847年10月）で、共産主義者同盟パリ地区委員会が、「新しい草案『共産主義者の信条』」の作成を委任したことを伝えています。この時、エンゲルスが問答風にまとめたのが『共産主義の原理』でした。

この『原理』の不十分さについて、エンゲルスはマルクスに「信条のことをもう少し考えてくれたまえ』(全集)第27巻、100(1頁)と、こう手紙(1847年11月23～24日)しています。

「僕は、問答形式をやめて、それを共産党宣言という題にするのがいちばんいいと思う。そのなかでは多少とも歴史を述べなければならないのだから、これまでの形式ではまったく不適当だ。僕は自分が書いたこっちのものを持つていく。」

共産主義者同盟第2回大会(1847年11月)は、マルクスとエンゲルスにプロレタリア党の綱領『宣言』を委任しました。『共産党宣言』(1848年2月)は、このようにマルクスとエンゲルスの共同の著作です。

3人の偉人

『宣言』については、多くの先達がその意義について書いています。ぼくの心に残るのはレーニンとフイデルの2人です。

レーニンは「このささやかな小冊子は、何巻もの書物に匹敵する。今日にいたるまで、文明世界の組織された、たたかうプロレタリアート全体が、この小冊子の精神によつて生き活動している」と宣言の歴史的意義を強調し、フイデルは「私を変えたのは『宣言』『宣言』を読んだ時、感激で身がふるえ、ぼくの世界観、進路は決まった」と、若者たちに語り続けた、その言葉です。

日本のマルクス、向坂先生の場合はこうです。

『宣言』をはじめて読んだのは、大学1年生の時である。…この人は勉強に値する、ぼんやりとでも思つたのは高等学校を卒業する前後であつた。

大学で『宣言』とエンゲルスの『空想から科学へ』を英訳でくり返しきり返し読んで、なんだか自分が歩く道がきまつたような気がした』

社会主義者と共産主義者

『宣言』が出た1848年はどんな時代であつたのでしょうか。これを考へる記述が「1848年英語版への序文」にあります。

「これが書かれたときには、われわれはこれを『社会主義宣言』と呼ぶわけにはいかなかつた。1847年に社会主義者といえば、一方ではさまざまの空想的体系の信奉者、すなわち、すでにともに萎縮してしまつて单なる宗派となり、次第に死滅しつつあつたイギリスのオーネン主義者やフランスのフーリエ主義者を意味し、他方では、膏薬をべたべたはつて、資本にも利潤にも危害を加えずに、あらゆる種類の社会の弊害をとり除くことを約束する種々雑多な社会的やぶ医者を意味した。両方とも労働者運動の外部に立ち、むしろ支持を『教養ある』階級に求める人々であつた。

労働者階級のうちで单なる政変では充分でないと確信し、社会の全面的改造の必要を要求した部分、この部分はみずから共産主義者と称した。それは粗野な、荒げずりの、純粹に本能的な共産主義であつた。それでもそれは、基本的な点にはふれていて、労働者階級のなかに空想的共産主義を、フランスではカバー、ドイツではヴァイトリングの共産主義を作りだすだけの強さをもつていた。このように1847年には、社

会主義は中産階級の運動であり、共産主義は労働者階級の運動であった。

社会主義は、少くとも大陸では、『サロンに出入りできるもの』であり、共産主義はその正反対であった。そしてわれわれははじめから『労働者階級の解放は労働者自身の仕事であらねばならない』という意見であったから、二つの名前のいずれを選ばねばならないかについては、疑いはありえなかつた。またそれ以後もわれわれは、この名前を捨てようなどと思ったことはない。』（岩波文庫『共産党宣言』24～25頁）

イギリスに始まつた産業革命（機械装置の発明と機械制大工業の発展）は、封建時代の『ゆつくりとした牧歌的』な生活を一変させました。その姿について『宣言』は、「ブルジョア階級は、歴史において、きわめて革命的な役割を演じた」と、岩波文庫版42～46頁に、『唯物史観とはこういうものだ』というよう簡潔かつ鋭く描いています。たとえば都市と農村の対立―過密と過疎、農村の衰退と崩壊―です。今では少子・高齢化ですけど。高齢化（長寿化）の原因ははつきりしています。少子化は、ブルジョア社会＝資本主義社会の家族形態である一夫一婦が、新しい姿への移行―子ども達を社会全体の責任で養育する―を求め始めたことの証左でないか。このことについてでは目下勉強中です。

『宣言』発表はすでに述べましたが、1948年2月。ヨーロッパでは1830年のフランス七月革命で、フランス大革命を封じ込めた「ウイーン体制」（オーストリア、フランス、プロイセン、ロシアの絶対王制）が悲鳴を上げていたのです。『宣言』が出た1848年は、フランス2月革命、ドイツ3月革命、ハンガリー・ポーランド・デンマーク等で独立運動がヨーロッパ全土を揺りうごかしました。イギリスでも普通選挙権を掲げたチャーチスト運動の高揚期でもありました。ヨーロッパはこうして「革命」期に入つていたのです。

根本思想

これら革命運動はすべて失敗。この失敗の原因をマルクスとエンゲルスは唯物史観から分析し、『宣言』の世界観をさらに発展させる共同作業を進めていったのです。その集約が『資本論』。そこでは資本主義が歴史の一過程にすぎず、労働者階級が新しい社会の創造者の役割を担うことが闡明されたのです。

このことを、エンゲルスは『宣言』の1883年ドイツ語版への序文で、次のように述べていることにも明らかです。

『宣言』をつらぬいている根本思想は次のことである。おののの歴史的時期の経済的生産およびそれから必然的に生れる社会組織は、その時期の政治的ならびに知的历史にとって基礎をなす。したがつて（太古の土地共有が解消して以来）全歴史は階級闘争の歴史、すなわち、社会的発展のさまざまの段階における搾取される階級と搾取する階級、支配される階級と支配する階級のあいだの闘争の歴史であった。しかしまたこの闘争は、搾取され圧迫される階級（プロレタリア階級）が、かれらを搾取し圧迫する階級（ブルジョア階級）から自分を解放しうるためには、同時に全社会を永久に搾取、圧迫、および階級闘争から解放しなければならないという段階にまで達した。――この根本思想はただマルクスだけに属するものである。』（滝野忠つづく）

未来に向け新たなる歩み始める

一 武庫川ユニオン 結成30周年を祝うつどい

労働組合武庫川ユニオンは2018年7月29日、ユニオン結成30周年を祝うつどいを尼崎リサーチ・インキュベーションセンター（ARIC）で開催しました。当日の午前中に第31回定期大会を開催し、午後1時から30周年記念を祝うつどいとなりました。

開会 台風下で

台風12号の行方が気になり、前日には開催を危ぶむ声もありましたが、午後には台風は過ぎ去っていることを確信し、開催に踏み切りました。東から西進してきた台風は、大会当日未明に三重県伊勢市に上陸し、午前に尼崎市を直撃するという最悪の事態となってしまいました。

しかし大会を開始するころには台風は過ぎ去り、午前中から予定の第31回定期大会を開催しました。正午頃には青空も顔を見せ、天も武庫川ユニオン30周年を祝つてくれているかのようでした。ただ、運休した鉄道路線もあり、但馬や丹波、広島などからの参加予定者は残念ながら参加できませんでした。一緒に祝つていただきたかっただけに本当に残念でした。

予定通り開催した30周年を祝う会には組合員100人が参加し、来賓として稻村和美尼崎市長をはじめ、社民党、新社会党、共産党、緑の党のみなさんや、ユニオン全国ネットワークに参加する名古屋、みえ、京都、なにわユニオン、全国ユニオン、ひょうごユニオンの各地域ユニオン、尼崎地区労加盟や共闘関係にある各労組や関係団体など多様な集まりとなりました。

つどい 新たな出発誓う

つどいは親和福祉会分会のみなさんにより始まりました。

最初は組合員の贊さんのギター演奏と宝塚市職労の上杉さんの歌「もののけ姫」でした。美しい歌声でつどいの開催を飾りました。

そして上山委員長から、「昨年の大会前は30周年を祝うつどいの開催を躊躇していましたが、一年間、記念集会の持ち方や記念誌や映像の制作準備のため写真の整理、そして沖縄訪問など記念事業を進める中で組合員の参加が増えてきて、元気を取り戻してきました。今日のつどいは参加予定人数を越え、おまけに台風まで来てしまった。新しい専従者も迎え、今日を新たな出発点に元気に楽しく闘い続けたい。」と開会のあいさつがありました。

稻村尼崎市長からは、武庫川ユニオンが非正規労働者の組織化など一人ひとりに寄り添い活動していることを評価し、永年の課題であつた公共調達基本条例が制定できることは運動の成果だとして、いろいろ不十分さはあるかもしれないが前進していることを理解して欲しい、と呼びかけられました。

尼崎地区労の酒井議長、ひょうごユニオンの岡崎委員長、ユニオン全国ネットを代表してユニオンみえの広岡書記長、全国ユニオンの鈴木会長、ユニオン顧問の上原弁護士などからそれぞれの立場で激励の言葉を頂きました。

乾杯 労働組合の出番

乾杯後になりますが、各政党の代表のみなさん、藤江、今西顧問からの激励のあいさつを頂きました。総じて、「労働運動は後退し、安倍政権の下で民主主義の危機が進行していることを確認したい」、「働き方改革関連法が成立したが、闘いまさにこれからであり労働組合の出番である」、「武庫川ユニオンの闘いの前進に期待したい」という趣旨の発言でした。

スピーチの前には乾杯を行いました。乾杯の発声は小林前副委員長。歩みを重ねてきました組合員一人ひとりの勇気への敬意と、さらなる前進への決意を込めた乾杯の発声がありました。

映像 30年の記録

懇談後に、「映像で振り返る闘い続けた30年 そしてこれから」の上映が行われました。30年前の結成大会の写真には、会場がどよめきました。みんな若かつたですものね。結成大会から30回定期大会にいたる映像、たんば支部結成、滋賀支部結成などが紹介、大会で行つた組合員の結婚を祝う会などほつと和む映像もありました。阪神大震災、多くの争議、レクリエーション、国際交流フェスタなどで30年を振り返りました。

組合員のNさんが制作に携わりましたが、なぜかトラブルが続き、完成したのは前日の午後9時半。冷や汗ものでしたが素晴らしい出来栄えで参加者にお褒めの言葉を頂きました。

演目 ダンス、サンシン、エイサー

続いて、韓国民主労働組合総連盟などとの交流に参加した宮本、福井両組合員の提案で、韓国の労働争議現場で踊られている「カジヨ」（行こう）のダンスを披露。まではサンシン部会が中心に、次は参加者全員が立ち上がって一緒にダンス。息切れてしましましたが誰でも楽しく踊れて会場全体が湧きました。

次は恒例のサンシン部会の演奏。「童神（わらびがみ）」と「涙そうそう」。少しは進歩したかな。戎先生も「三線の花」の演奏をしました。

そして最後は、武庫川自動車学園分会の副委員長が参加しておられる、エイサー「グループ「琉鼓会」の皆さんによるエイサーの演技がありました。総勢20人で打ち鳴らす太鼓の音は、参加者の体中を震わせました。30分の大熱演に続き、みんなで踊る「チャーシー」では一体感が生まれました。琉鼓会の方からは、盛り上がってやりやすかつた、とお褒めのことばを頂きました。

閉会 組織拡大実現

閉会は、全員が円陣を組んでの、恒例の「鉄の労働者」の大合唱でした。つどいは3時間半にも及びましたが、参加者から「感動した」、「写真パネルは闘争現場のいい表情があつた」、「映像には涙が出た」などと励ましていただきました。

閉会のあいさつを書記長の小西が行い、「台風の中、駆けつけて頂いた組合員、来賓のみなさんに感謝します。武庫川ユニオンの30年は山あり谷ありでしたが、支えて

頂いたこと、そして何より本日の集いを成功させることができたことに感謝したい」と述べました。そして塚原さんを紹介し「午前中の定期大会で塚原さんを新しく書記次長として選出した。塚原さんは、「地域から頼りにされるユニオンの未来を作つてほしい」と述べました。塚原さんは、「地域から頼りにされるユニオンにさらに発展させること。毎年組織拡大を実現することを約束する。」と力強い決意表明で、武庫川ユニオン 30周年を祝うつどいを締めくくりました。笑顔溢れるつどいでした。

私たちはつどいの成功に満足するのではなく、未来に向けた新たな歩みを始めていきます。参加頂いた組合員やご来賓のみなさんありがとうございました。

（武庫川ユニオン書記長 小西 純一郎）

◇ 読者からのおたより ◇

毛利孝雄の「辺野古・高江の現場から—125（2018・8・15）」

*昨日、翁長知事の追悼記帳に行つてきました。平河町の都道府県会館10F（永田町下車）の沖縄県東京事務所に記帳台が設けられています。受付は17日16時まで。

「8・11県民大会」に7万人 県による「撤回」、県知事選、予想される裁判闘争。沖縄を孤立させない、安倍政権の横暴を許さない、本土側の取り組みこそが問われています。

*池袋・首都圏集会 2800人参加の発表があつたが、デモに入つても参加者は増え続けた。屋外にもかかわらず集中した集会に。第2グループの先頭で歩かせてもらいました。

□ 土砂投入を許さない！ ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める

8・11 県民大会決議（全文） 辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議（8月11日）

国は、8月17日からの辺野古地先への埋め立て土砂投入を沖縄県へ通知した。現在行われている環境アセスを無視した数々の違法工事は、仲井眞前知事が退任の4日前に承認した追加申請によるものである。沖縄県は、沖縄防衛局に対し、再三にわたり工事実施前の事前協議を行うことを求めきてきたが、沖縄防衛局はこれを無視し十分な説明を行うことなく、沖縄県民の民意を踏みにじり、環境破壊につながる違法工事を強行し続けている。

7月27日、翁長沖縄県知事は「埋め立て承認撤回」を表明し、8月9日に聴聞を開始した。ただちに国は埋め立て工事を中止し、新基地建設計画を断念すべきである。

私たちは安倍政権と沖縄防衛局に対し強い怒りを持つて抗議する。私たちは豊かな生物多様性を誇る辺野古・大浦湾の美ら海に新たな基地を造らせない。沖縄県民の命とくらし、沖縄の地方自治と日本の民主主義と平和を守るためこの不条理に対し全力で抗い続ける。

今県民大会において、以下、決議し、日米両政府に対し、強く抗議し要求する。

- 1、ジュゴンやウミガメなどの生きていくための豊かな海草藻場や希少なサンゴ類の生息環境を破壊する土砂投入計画を直ちに撤回すること。
- 2、大浦湾側には活断層の疑いがあり、その付近の海底には、超軟弱地盤が存在する。辺野古新基地の立地条件は成り立っていない。建設計画を直ちに白紙撤回すること。
- 3、沖縄高専、久辺小・中学校、集落は、米国の安全基準である高さ制限に抵触している。児童生徒と住民の生命と財産を脅かす新基地建設を直ちに断念すること。
- 4、欠陥機オスプレイ配備を撤回し、米軍普天間基地を即時閉鎖・撤去すること。
- 5、欠陥機オスプレイの国内における飛行を直ちに全面禁止すること。

【宛先】内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 沖縄及び北方対策担当大臣 米国大統領 駐日米国大使

思い出の郵便ボストNo.130（8・15） 今回の思い出の郵便ボストは、愛知県豊田市足助町「梅ヶ枝屋」前の丸型郵便ボストです。5月撮影しました。

今年は暑さも異常、加えて30年ぶりの「水不足」。稻の水は何かで確保していますが、りんご畑は干ばつで、用水にも水がなく、深刻な状況です。

翁長沖縄県知事が亡くなりました。残念です。ご冥福を祈るとともに、真っ当な日本のために頑張りたいと思います。

（長野県飯綱町・山浦隆芳）

高浜4号機起動（再々稼働）阻止！ 8・22高浜現地抗議行動 『原発うごかすな！ 実行委員会@関西・福井』は、8月22日に福井県高浜町の高浜原発4号機ゲート前で、「高浜原発4号機起動（再々稼働）阻止！」高浜現地抗議行動を実施した。高浜原発先の展望台に参集した福井・関西はじめ、伊方・川内原発現地からの市民約60人は、高浜原発3・4号機ゲート前までの数百メートターを「高浜原発うごかすな！ そのまま廃炉！」「危険なMOX燃料を使うな！ 使用済み核燃料プールを空にせよ！」とシュプレヒコールしながら、元気よくデモ行進した。

放射能蒸気漏れ事故 高浜原発4号機の起動（再々稼働）を延期 原発ゲート前では、若狭の原発を考える会の橋田秀美さんの司会で進行し、主催者を代表して、若狭の原発を考える会の木原壯林代表から、「昨日高浜原発4号機で、放射能を含んだ蒸気漏れ事故を引き起こした関西電力は、本日の高浜原発4号機の起動（再々稼働）を延期した。原発は人類の手におえないものだ。もはや高浜4号機はそのまま廃炉にすべきだ」と挨拶。地元の東山さんによると、37度という、高浜町でもこの夏最高気温のもとで、怒りの発言が相次いだ。

千葉県の放射能ホットスポットから一家で避難されてきた滋賀県の山崎さん親子は、「原発は必要という人がいるが、『お金といのち、どつちが大切？』絶対に再稼働はしてほしくない。もう2度と事故を起こしてほしくない。故郷で暮らせることが当たり前、家族が一緒に暮らせることが当たり前であってほしい。」と訴えた。木原さんを先頭に代表団が高浜原発所長に関西電力社長あての再々稼働中止を求める申し入れ書を提出。その後も炎天下、2時間以上の抗議行動を継続した。

「美浜町をはじめ、反原発の議員が嶺南でたくさん増えた」と地元の町議から複数挨拶。伊方原発や川内原発現地で反対闘争を展開する仲間からの訴え。関西各地で反原発を闘う仲間。反原発議員市民連盟関西ブロックからは二木さん、小山さんが挨拶。午後3時、再びの怒りのシュプレヒコールで原発ゲート前での抗議行動を始めた。（さいなら原発・びわこネットワークNo.30 稲村守）

高浜原発このまま廃炉！ 関電大阪本店包囲全国集会 「原発うごかすな！ 実行委員会@関西・福井」主催 8月25日（土）15時から 大阪中ノ島 関電本店前、16時45分

「日本通運」雇い止め裁判傍聴のお願い 日本を代表する流通貨物産業の大手である日本通運で女性労働者が2018年3月末で雇い止め（解雇）された。4月2日、雇い止めの無効を求めて東京地裁に提起し、現在、裁判闘争中である。詳しい経緯、現状、今後の取り組みについては女性労働者が所属する労働組合『ユニオンネットお互いさま』のニュース、ホームページ等を参照し、裁判闘争に対する支援をお願いしたい。

（労者研事務局長 本村充）

『日本通運』雇い止め裁判日程（可能な限りの傍聴をお願いします）

9月10日（月） 11時 東京地裁 632号法廷

資本・会社の「生産性向上」の本質を見抜き、労働運動を強化しよう！

国労三支部交流会 第20回

通常国会が7月22日に閉会をしましたが、安倍政権は今国会にて重要法案と位置付けていた「働き方改革関連法案」を強行採決しました。この中で「高度プロフェッショナル制度」では労働時間規制が撤廃され、過労死を引き起こすことになりかねません。過労死遭族や多くの労働者、有識者から強い反発が有るにも拘らず強行したことは断じて許されません。

安倍首相は、「経営側から制度の導入をすべきとの要望に応えた」と、暴露しました。資本家の剩余価値を高めるために、働く者を犠牲にするこの「法」は経営者の為の働き方改革であることが明らかになりました。今後私たちは「悪法」職場に導入させない事と合わせて、憲法改悪阻止の闘いが重要になつて来ます。（谷崎正信（新橋支部）、野佐根浩巳（上野支部）、波能秀幸（中央支部））

日時 9月8日（土）10時～15時 会場 東田端ふれあい館／田端駅5分／会費2000円
講演 生産性向上に対する労働組合の闘い（仮題）むさん社会福祉法律事務所 河村健夫弁護士